

令和元年度 第18回政策推進会議報告

日 時 1月20日 16時08分～16時38分
場 所 4-1会議室
出席者 19人

1 (仮称) 尼崎市人権文化いきづくまちづくり条例(骨子素案)に対する市民意見公募手続の結果について

総合政策局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) この条例に基づいて計画も作るし、元々は人権教育啓発計画を改定するにあたって条例を定義しようということなので、社会教育のパートや学校教育における人権問題の取扱いについても深くリンクするような問題提起がたくさん含まれている。市長部局も人権教育を生涯学習プラザで実施していることもあるので、私たちもこれを機に勉強していきたいと思う。

2 尼崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第8期)の策定に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

健康福祉局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) 3年ごとに見直している計画の「市民意見聴取に係る施策の概要」で意見聴取に対してのポイントを提示するにあたって、PDCA サイクルの管理・評価を行うということを書いてもあまり意味がないと思う。「直近3年のPDCAを回した結果はこういう風になっており、次の3年はこういうところがポイントになると思っているのでご意見をください」と言う風に提示していかないと、この資料をわざわざ作っている意味が届かないと思うので、今後は書き方を改善してほしい。これは全局に言えることだが、何のためにこの施策の概要を書いているのかということに立ち戻り、初めてこのような意見募集をしていることを知った市民に、少しでも今何が論点になっているのか、どういうところについて意見を聞きたいのかということが伝わるように意識してこの様式を記入してほしい。
- ・(市長) 昨日、特養で働いている人たちが集まっているような勉強会に参加した。2025年に団塊の世代のボリュームゾーンが後期高齢者になるということが2025年問題と言われるが、やはりその世代の方々はプライドも残存能力も高いので、自立支援型というか、残存能力をより大事にしていくようなケアに切り替えていくというのが本人のニーズにも適うケアの在り方になっていくのではないと思う。「何でもかんでもやってもらえたら楽でいい」というよりは、ご自身の主体性ややれることに合わせたやりすぎないケアが求められるのではないかと。ただ、ヘルスアップの時にも同じような議論になったが、こういうことを言うと「どうせ予算を削りたいからそう言うんだ」、「サービス剥がしだ」と指摘されるので、そうではなく本当に尊厳を保ちQOLを高めるケアということで、もう一度真っ向から議論したほうがいいと思っている。グループハウスでは、例えば一人暮らしのときはついでらだらとして出来ていなかった洗濯や食事の用意が、集団生活でサポートを受けるとまた自分で出来るようになって

て、一人暮らしより生活能力が向上するというケースがある。そういったある種の自立支援型ケアが、もしグループハウスできちんと出来ているのであれば、それを介護度等でデータとして見える化できないかという話もしている。そういうことも踏まえながら、大いに議論すべきだと思っている。

以 上